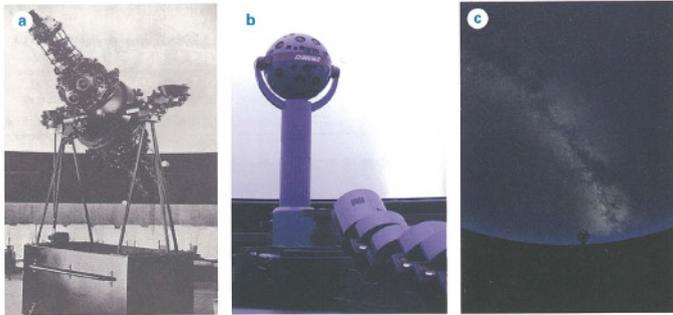


2017年4月5日(水曜日)発行のクローズアップ日本事情15に パンの缶詰について紹介されました!

プラネタリウム投影装置

だれでも一度はプラネタリウムでドームの天井に映し出される星空を見て感動したことがあると思う。宇宙に関するさまざまな商品を開発してきた五藤光学研究所では、2014年に世界で初めて、肉眼で見ることができる約9,500個の星すべての色を再現したプラネタリウム「ケイロンⅢ」を開発した。この製品のシリーズは国内外の科学館などに数多く導入されている。

1959年に日本初のプラネタリウムを開発した同研究所のこれまでの製品納入数は、小型から超大型まで合わせて1,000台を超える。「科学的に正しく、かつ、美しい星空」の再現を目指してきた五藤光学研究所製のプラネタリウムは、これからも世界中の人たちの上で輝き続けることだろう。



a. 1959年に製造されたM-1型
b. 札幌市青少年科学館に導入されているケイロンⅢ
c. 同科学館で映し出される星空
(画像提供: 五藤光学研究所)

長期保存が可能なパンの缶詰

地震の多い日本では、いつ起きるかわからない災害に備えて非常食を準備しておくことが重要だと考えられている。非常食というと、硬いカンパンやお湯をかけて食べるごはんが主流だったが、最近注目されているのが、パン・アキモが開発したパンの缶詰「PANCAN」だ。



ストロベリーやオレンジなど、いろいろな味がある
(写真提供: パン・アキモ)



これまで、パンは長期保存が難しく、非常時には手に入りづらいものだった。しかしこのパンの缶詰は賞味期限が最長で37か月もあり、ふたを開けると、ふわとしたパンが飛び出す。被災地への緊急支援や国際協力にも活用されている。また、なかなか買えないお年寄りにとっても、いつでも柔らかいパンを食べることができるすばらしい発明品だ。



(写真提供: パン・アキモ)

TASK C

新しい技術やアイデアを生かした製品の中で、あなたがいちばん感動したものの、すばらしいと思ったものは、どのような製品ですか。その製品の特徴を紹介する文を、自分の言葉で200字で書いてください。

日本のロボット 技術の原点?



日本では、江戸時代に「からくり人形」と呼ばれる人形が人気を集め、盛んに作られました。今で言うロボットのような人形です。両手に持ったお盆にお茶碗をのせると、そのお茶を客の前まで運ぶ人形が有名ですが、そのほかにもいろいろな仕掛けのある人形があります。



これらの人形は、金属を使わず、ほとんど木で作られているのが特徴です。日本のものづくりの原点の一つは、このようなかからくり人形にも見ることができます。

a. お茶を運ぶからくり人形 b. 馬に乗って遊ぶ子供の人形の内部

(撮影: コテラケイ 写真提供: nippon.com)

クローズアップ 日本事情15

JAPAN UP CLOSE
15 Lessons on Society and Culture in Japanese

日本語で学ぶ
社会と文化

今と昔
都市と地方
世界と日本
さまざまな角度から
解き明かす
いま知っておきたい
日本の姿

話し合う、
比べる、
調べる、

佐々木瑞枝
Mizuki Sasaki

108